



Title	詞林 第10号 凡例
Author(s)	
Citation	詞林. 1991, 10, p. 2-4
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/67307
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

凡 例

一、本文は第五系統に属する大阪青山短期大学蔵藤原定家手抄本（以下、「定家本」と呼ぶ）を底本として正確に翻刻することにつとめたが、適宜濁点を付し、旧字体は新字体に改めた。

一、定家本等第四・五系統の諸本では8番「ふかみどり」歌、7番「きつゝのみ」歌の順になっている（すなわち、定家本に従えば「ふかみどり」歌を7番、「きつゝのみ」歌を8番とするべきである）が、現在一般には書陵部A本が通行本になっているので、歌番号は書陵部A本によることにした。

一、底本は12番「あきのゝに」歌と32番「くれなるの」歌を欠くが、書陵部A本によって補った。歌番号も書陵部A本に従う。

一、歌仙家集本と彰考館本は、六首の増補を持つ。これを便宜上、46〜51番歌として補った。

一、書陵部B本も五首の増補を持つ。これも便宜上、52〜56番歌として補った。

一、注釈は以下の手順で行った。

・【校異】の欄では、以下に示した各系統の本文の定家本との異同を○に記した略称を用いて示した。なお、校異にも適宜濁点を施してある。

名家家集切（名）

第一系統—書陵部A本（五〇一・二一〇）（書A）

第二系統—書陵部B本（五一〇・二二）（書B）

第三系統—歌仙家集本（歌仙）

第四系統—西本願寺本（西）

静嘉堂文庫本（静）

群書類従本（群）

第五系統—彰考館本（彰）

なお、仮名遣い・漢字仮名の表記の違い等には言及していない。

また、名家家集切の26番は写真版等では確認できなかったので、伊藤卓次「静嘉堂本是則集（下）」（『美術研究』一九五・一九五八年三月）にとられている校異によった。

・【語釈】の欄では、適宜取り上げるべき語句に解説を施した。その際、底本のままでは意が通じ難い箇所があればその旨を指摘し、また、他本の解釈もなるべく示すようにした。

・【修辞】の欄では各歌に施されている修辞を纏めて指摘した。

・【通釈】の欄では底本に従った口語訳を載せた。なお、底本のままでは意が通じない場合などは、他本に従うこともあるが、その時は【語釈】の欄でその旨を断つてある。

・【他集】の欄では『是則集』以外の歌集に同歌が掲載されている場合纏めて示した。

・【付】の欄では、以上の欄で取り上げ難かったことで、解説すべき事柄に触れた。

一、歌の引用並びに歌番号は、私家集からの場合は『私家集大成』を用いて適宜濁点を付し、その他の場合は『新編国歌大観』を使用した。また、【語釈】の欄に引用した歌の作者は元の官職等による表記を避け、姓名等のわかりやすい形に改め、作者不明歌については一括して「読人不知」とし、加えて詞書を省略した場合もある。なお、歌集等の名称はおおむね『新編国歌大観』あるいは『私家集大成』の名称に従ったが、『古今和歌集』・『古今和歌六帖』等はそれぞれ『古今集』・『古今六帖』などという略称を用いた。

一、物語・日記・漢詩集等からの引用は、以下の本による。

・『文華秀麗集』——岩波古典文学大系『懐風藻文華秀麗集本朝文粹』

・『菅家文章』——岩波古典文学大系『菅家文章菅家後集』

・『伊勢物語』——岩波古典文学大系『竹取物語伊勢物語大和物語』

・『宇津保物語』——宇津保物語研究会編『宇津保物語本文と索引本文編』

・『源氏物語』——新潮日本古典集成『源氏物語』

・『狭衣物語』——岩波古典文学大系『狭衣物語』

・『蜻蛉日記』——岩波新日本古典文学大系『土佐日記蜻蛉日記紫式部日記更級日記』

・『和泉式部日記』——岩波古典文学大系『土左日記かげろふ日記和泉式部日記更級日記』

一、歌学書類からの引用は歌学大系による。

一、以下の『古今集』の注釈書からはたびたび引用することがあるが、その際には下に示した略称に従うことにした。

・金子元臣『古今和歌集評釈昭和新版』―『金子評釈』

・竹岡正夫『古今和歌集全評釈』―『竹岡全評釈』

・岩波古典文学大系『古今和歌集』―『大系』

・小学館日本古典文学全集『古今和歌集』―『全集』

・新潮日本古典集成『古今集和歌』―『集成』

・岩波新日本古典文学大系『古今和歌集』―『新大系』

一、注釈は次の通り分担して執筆した。その際相互に意見を交換するとともに、伊井春樹（本学助教授）、佐藤明浩（本学助手）、堤和博（本学大学院博士後期課程）が全体を監修した。

田島智子（本学研究生） 1～5番、阿部真弓（本学大学院博士前期課程） 6～10番、胡秀敏（本学大学院博士後期課程） 11番・13

～16番、渡會敦幸（本学大学院博士前期課程） 12番・32番・52～56番、中原香苗（本学大学院博士前期課程） 17～21番、近本謙介

（本学大学院博士後期課程） 22～26番、中本大（本学大学院博士後期課程） 27～31番、赤松智子（本学大学院博士前期課程） 33～

38番、長尾佐知子（本学研究生） 39番・46～51番、山崎淳（本学大学院博士前期課程） 40～45番